

新風

発行 神石高原町議会議員

木野山孝志 後援会

平成23年10月10日 NO.28

神石高原町父木野2953-1

ホームページ <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~t-kinoyama/>

9月定例会

平成22年度決算

合併以来最大の決算

総額で186億2千万円の歳出決算

9月定例会は、9月8日から22日まで開かれまし

た。平成22年度決算数値は表のとおりですが、歳出総額は186億2108万円、昨年度の決算と比べ、24億5964万円の増（15.2%）となっています。

合併以来最大の決算となりました。

これは、3大プロジェクト事業といわれたCATV情報通信網基盤整備、井関定住促進団地整備、三和統合小学校建設の大型ハード事業などが平成22年度に集中したため、かきネット基金などの新規積立金の増によるものです。

財政への負担は思うほ

どではなく将来負担比率、実質公債費比率など財政比率は改善しています。国の交付金や補助金をうまく活用し、繰上償還（3億9千万円）を行うなど行財政運営への努力の結果と

思われます。しかし、単年度でみると本年度は借入額（町債）が20億600万円、昨年度より10億6千万円の増、借金返済（公債費）は26億2600万円と1億円強の減となっており、また6特別会計で単年度収支が赤字となりました。

東日本大震災の影響で交付税収入が予測を超える減少となると今後の財政計画の変更が必要で、予断を許しません。



三和小学校 運動会

22年度決算統計			
単位:万円			
区分	H20年度	H21年度	H22年度
財政力指数	0.240	0.244	0.235
経常収支比率	92.1%	83.4%	79.1%
公債費比率	20.5%	17.4%	14.1%
実質公債費比率	21.9%	20.5%	18.0%
地方債現在高	157億6361	146億7511	142億7291

平成22年度収支決算総括表				単位:万円(四捨五入)	
会計名	歳入	歳出	明許繰越	差	引
一般会計	148億5656	143億0749	5266	4億9641	
国民健康保険	12億2904	11億7875		5029	
後期高齢者医療	4億2596	4億0820		1776	
老人保健	584	441		143	
介護保険	18億0762	17億8490		2272	
簡易水道事業	3億8561	3億7005		1556	
飲料水供給施設事業	4243	4059		184	
農業集落排水事業	2億5370	2億4706		664	
総合開発事業	1億4636	1億4636			
分収育林事業	3	3			
病院事業会計	1億3324	1億3324			
合計	192億8640	186億2108	5266	6億1266	

平成22年度一般会計決算比較表

歳出総額 143億 749万4千円

6.8%	10億1450万円	町 税	自主財源 14.0%	義務的経費 30.7%	人件費	14億9058万円	10.0%								
1.1%	1億6603万円	使用料及び手数料				20億7276万円	45億5734万円	扶助費	5億1289万円	3.5%					
1.7%	2億4784万円	繰 入 金							公債費 (借金返済額)	25億5387万円	17.2%				
3.0%	4億4290万円	繰 越 金													
1.4%	2億0149万円	その他分担金等の収入	投資的経費 33.0%	普通建設事業費	45億8935万円							30.9%			
1.8%	2億7061万円	地方譲与税				49億0336万円	災害復旧費	31401万円					2.1%		
1.3%	1億8784万円	各種交付金							その他 32.6%	48億4680万円	物件費など			14億9582万円	10.1%
41.4%	61億4556万円	地方交付金													
21.0%	31億1861万円	国庫支出金	積立金	10億9546万円	7.4%										
7.1%	10億5518万円	県支出金				貸付金	1000万円	0.1%							
13.5%	20億0600万円	町債(借入金)							繰出し金	11億8406万円	8.0%				
												次年度繰越金(注1)	5億4906万円	3.7%	
歳 入(148億5656万円)				歳 出(143億 749万円)											

(注1:繰越される事業の財源5,266万円を含みます)

自主財源の割合が14%と昨年に比べて率にして2.3%、額にして4924万円減少しています。経費は29億5876万円、町税が2716万円(▲152.2%)の増。

2.6%の減、地方交付税は4億1315万円(7.3%)の増。投資的



スポーツ少年団
野球大会(切田町営野球場)

<9月度 条例改正のおもなもの>

○税条例の一部改正

* 東日本大震災被害者の税負担軽減措置

- ・雑損控除
- ・住宅借入金など特別税額控除

○町営住宅設置管理条約の一部改正

- * 町営住宅入居に伴う連帯保証人について
- ・町内居住案件の廃止

9月補正

一般会計補正予算の主なものは、災害復旧費、財政調整基金積立1億円、小中高支援基金積立2千万円、地域再生基金積立3千万円で補正後予算額は108億9039万円となりました。

245万円を含め、全会計総額で154億3834万円となりました。

平成23年9月補正(一般会計)

(単位:万円)四捨五入

費目	補正予算	補正後予算	主な内容
議会費	-▲158	1億0147	議員人件費
総務費	3億1304	17億9263	かがやきネット管理運営経費3,250、ふるさとふれあい1,002 土地改良区選挙▲507、県議会議員選挙▲829
民生費	-▲382	16億9214	後期高齢者繰出198、子ども手当▲1,035
衛生費	210	10億1561	不可燃物集積倉庫補助60、エコタウン普及促進150
農林水産費	3199	9億6462	地域営農機械導入補助634、ビニールハウス設置110、ぶどう棚等108、 土地改良区▲553、森林整備870、小規模崩壊地復旧550
商工費	570	9184	仁吾川ヒレッジ浴室130、観光ガイド58、スコラ290、ヒコキ7-51
土木費	2102	5億5895	国県道整備負担923、単独町費町道整備1,000
消防費	1769	4億4294	東日本大震災公務災害補填(非常備消防管理経費)1,733
教育費	555	5億8353	神石小学校建設80、保健体育施設管理291
災害復旧費	3億4853	3億7168	農地、農業用施設1億3,000、林道6,229、道路橋梁1億5,623
公債費	8754	22億2020	長期債元金繰上償還8,754
諸支出金	1億4650	10億1477	財調基金積立1億、小中高支援基金積立2,000、 かがやきネット基金▲350、地域再生基金積立3,000
合計	6億9252	108億9039	

決算質問

木野山6会計の単年度収支が赤字で、赤字合計額は▲8204万4千円となっている。財政運営は抜かりなく行え。

総務課長どの会計も累積赤字となっていない。次年度と合せるとそれ程でもない。今後は国庫補助なども厳しくなるので、より一層厳しく状況を注視し財政運営にあたる。

オンラインを目指して

木野山夢創造委員会の提言を今後はどう生かすか。

まちづくり推進課長

- ①全国有数の長寿のまち
- ②エネルギー自給自足の美しいまち
- ③生命への敬意を育む教育・交流のまち
- ④全国有数の医療拠点のまち
- ⑤産業の自立したまちを、より具体化しオンラインワンを目指した予選編成を行う。



神石郡畜産共進会

木野山道の駅実証実験事業の成果は。

引き続き指導を。

まちづくり推進課長下関市と東広島市の道の駅にてモニター実験を行った。

対象集落は、源流の里しんさかで、製造された対象商品の評価を基に百彩館祭りやマルシェへ参加し、商品化されつつあります。

木野山ケーブルジョイとの1RU契約は、できるだけ町の負担を軽減すべきた。

まちづくり推進課長初年度は、かがやき便りや議会中継などの番組はケーブルジョイの費用で運

営。これらの番組の充実と1年間の実績を勘案し負担割合を考えていきたい。

木野山保育所の指定管理者制度導入は財政的課題解消のためか。

福祉課長ひとり当り130万円の運営経費と維持管理費は年々増加傾向。土・日の保育要求など住民ニーズに対応するには弾力的な運営が必要。町の直営では難しくなってきた。

木野山放課後子どもプラには高蓋地区の子どもには実施されていない。公平性が保たれていない。生涯学習課長地区の保護者の要望を聞き検討する。

原点に返って「神石牛」の復活を

木野山神石郡で生産される牛肉のブランド対策をどうする。他の産地との差別化が可能か。「神石牛」という商標登録を急げ。

産業課長4本柱でブランド化を目指す。
①次世代に引き継げる肉用牛生産基盤の確立

②子牛の供給産地として再構築を行う

③地域内での一貫生産モデルの確立

④販売力の向上と直産体制の整備を行う

「神石牛」商標登録がどこにもなされていないければ商標登録は可能です。

優良な子牛を確保し、生産から販売まで一貫した取組みを行いブランド化に繋げたい。

木野山「広島牛」への取組みによって、種は混ざってしまっている。元から復活させる努力が必要だ。

井関住宅販売は条件緩和で早期販売を目指せ

木野山監査委員は販売戦略や条件の再検討を望むと指摘している。町長の条件や戦略を変更しないと契約された方との整合性が無くなる。

条件変更が必要なら行うが前もってお話するのは大変失礼な面がある。

町長誤解だ。基本的には早く売りたい。全部売りたいので、執行者にお任せいただきたい。

補正予算質問

ファンド事業の効果は

木野山今回採用の4つのファンド事業はどういう事業効果を期待しての採用か。

まちづくり推進課長

①源流のさと維持活性化再生事業は、猪肉の解体・販売で地域特産物として市場拡大を目指す

②仙養ヶ原巨大石アートは、町のPRと芸術。

③輝くふるさと時安は、地元文化の継承と活性化

④相度有機農業塾は、交流と農業振興

木野山今までの事業効果については町民から疑問視する声もある。民間に任せきりでなく、事業効果はハードで残るものなのでしっかりと検証すべきだ。

まちづくり推進課長民都機構への実績報告などを含め、しっかりと事業検証を行い、報告する。

一般質問

地域活動は公共放送で周知を

木野山地域での自治会やボランティア団体が行う行事の周知は積極的に行うべきで、それが多いほど関心も増え、行事も活発化し活性化に繋がる。今後の対応は。

まちづくり推進課長充分に吟味せず、公共的な部分だけ優先的に行おうとスタートしている。

副町長・担当課長・関係課長などで、庁内委員会を設け検討する。皆さまにお役にたてる方向で検討したい。

木野山地域活動は金銭を伴っても営利活動ではない。規制は避けるべきだ。

町長 ①告知放送端末を使った一般放送とページング放送。②自主放送・11チャンネル利用のデータ放送③知っとくネット放送と用意している。

公共性を尊重することから、政治活動、宗教活動、営利活動の利用は控えて頂く。地域活動については、営利かどうかの基準が必要と思う。

副町長 庁内委員会で整理する。住民に必要な情報は行政で確実に伝えなければならぬ。

知っとくネットは大いに利用して欲しい。



京都大学交響楽団
(やまなみ文化ホール)

イノシン被害の復旧対策 ○補助する方向で考える

木野山近年、猪が増え、懸命の捕獲にも拘わらず被害が増大している。

補助するという事で、考えてみたい。

放置すると、耕作放棄地は益々増え、そこに猪が出現し農地の荒廃を招く、と悪循環になっている。

木野山前向きな回答をいただいた。有り難いと思う。

里山を守るためにも復旧対策が必要だ。

他の市町も、限度額は設けているが、かなりの補助制度を設けている。

町長 電気木柵、わな購入などについては一定の補助をしている。復旧対策についての助成制度は今のところ無い。

来年度の予算には、是非反映して欲しい。



三和中学校 文化祭

全国学力・学習調査 本年度は、どう取組むのか

木野山文部科学省は、本年度は従前の全国・学力状況調査を見送ると通告しました。平成22年度実施によって把握された本町児童の課題と対策は。

それに向けての本年度の取組みは。

教育長 道徳教育推進協議会を中心に家庭との連携に努め、課題解決に向けて取組みを進めている。

教育長 知識はついているが、その知識を活用する力に課題がある。中学校は言語活動に力を入れて取組んでいる。

本年度は、東日本大震災のため調査は見送られたが、国から検証・改善サイクル継続のために配布された問題冊子を活用し、9月25日から10月5日までの間に全校で実施する。

テーマを決め全校の職員が1か所に集まり研修している。学力向上に向けた成果は上がっている。

結果が分かり次第分析を行い今後の指導改善に繋げたい。

木野山22年度の結果では、学力は全国・県の平均をかなり上回っており基礎学力はついている。

木野山子どもたちが将来の夢を持っていないなどの部分が全国レベルを下回っているのは、今後「まちづくり」の上で課題だ。子どもたちが、本町に夢をもって意欲のある子どもに育つようお願いしたい。

課題は、自己肯定感、将来の夢を持っているか、また読書、読書習慣について国・県レベルを下回っていた。その後ど